

『スパークス 日本株長期投資のすすめ』



スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第58号(2009年10月23日)

「官僚主導から市場主導へ」

先の衆議院議員選挙で民主党が大勝し、鳩山内閣が発足してから約一ヶ月が経過しました。今後の政策運営の舵の取り方にもよりますが、従来からの自民党政権による官僚主導の政治体制から大きな転換点となる可能性があります。

スパークスでは1989年の創業当時から、日本の経済モデルは官僚・銀行を頂点とするピラミッド型の経済統治システムの中で国際競争力のある外需産業から、非効率的な内需産業へと富を分配するという戦後型の経済モデルから、市場を主導とした経済システムへと変貌を遂げるという投資仮説を掲げ、そこから多くの投資機会を見出してまいりました。

現在までも、官僚主導から市場主導の経済システムへ転換は少しずつ進んできておりましたが、一方で構造改革に抵抗する既得権者や長引く景気の低迷等もあり、まだ途上であるともいえます。

しかし、規制緩和等により、従来までの輸出主導型の日本の大企業とは違った新たな成長企業が過去においていくつも誕生しており、今後の規制緩和等により大きなビジネスチャンスが生まれるきっかけになるかもしれません。またそのような環境の中から、既にグローバルで活躍する大企業に並ぶほどの規模に成長する、新たな国際優良企業が誕生する可能性があります。

スパークスの投資仮説はまだ全てが現実のものになったわけではありませんが、民主党の政策が官僚主導から市場主導への転換を今後も推し進めていくのかどうか、大きな関心を持っていく必要があると考えております。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。